



顔の見える友情の絆が、育っています！

今年度の「地球家族」は、国際交流前線の真っ直中にいる方々に登場していただきます。まずは、姉妹提携十周年を迎えた韓国忠清南道とアメリカモンタナ州への派遣研修から帰ってきた県職員の一二人から――。



黒瀬 浩児(国際課主事)
平成4年5月から平成5年3月まで、韓国忠清南道庁へ派遣研修

●互いの文化を尊重し、真の友好を
以前、観光で訪れたことがあったので、多少は韓国のことは知っていたつもりでしたが、実際に韓国で生活することは、観光客として韓国と接することとはずいぶん違っていました。
例えば、食事一つにしても、茶碗を持って食べないし、一つの鍋物を、皆各自のスプーンで直接すくって食べるのを勤務先の道庁の職員たちと毎日行うわけであり、気になりだすと頭が痛くなることもありました。

しかし、実際に道庁の職員とつたない韓国語で話してみると、家族、趣味、仕事について考えることは私たちと共通点も多いのです。そんな時は外国人に接しているのではなく、身近な友人に接しているという感じでした。

それでもやはり日本と韓国は、それぞれに固有の歴史、文化、伝統を持っている別々の国です。これらをお互いに尊重しなければ、真の友好はありません。姉妹提携十周年を機に、一人でも多くの人が韓国と顔の見える付き合いをしてほしいと願っています。



上野 真也(国際課参事)
平成3年4月から平成5年3月まで、アメリカ合衆国モンタナ州へ派遣研修

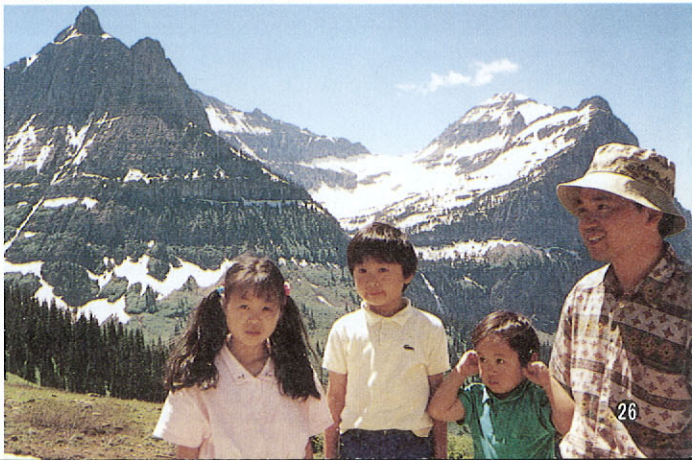
●日本を、熊本を、再認識

昨年六月、モンタナ州ヘレナ市に、熊本プラザがオープンしてほぼ一年たちました。アメリカで、このような県のセンターが、県の各種情報発信や日本文化の普及友好促進をダイレクトに行っているのは、非常に珍しい例です。

現在、五千人を超える人がプラザを訪れ、熊本や日本に関する情報を入手したり、県産品の展示を見学したりしています。もちろん熊本県民のための施設でもあり、姉妹交流で訪れた方々に、言葉のトラブル解決からモンタナ州の観光情報提供、またはレセプション場所として、多目的な利用をしていただいています。

モンタナ州にとっても、初めての外国の施設ということで住民の関心も非

夏も氷河が残るグレーシャー国立公園



常に高く、最近ではヘレナ市を訪れた観光客にとってもチェックすべき場所になってきました。小中学校、各種団体、児童施設などからも見学予約がたくさんあり、多くの子供たちが折り紙を作ったり茶道に挑戦したりしています。
私にとっては、熊本や日本の伝統文化、歴史、社会制度について説明したりすることは、意外にも日本を知らないうということを経験させられ、改めて勉強する良いチャンスになりました。
モンタナ州と熊本県の交流は、十年の歳月を経て次第に行政主導から個人のレベルの友情の輪が広がっています。文化、教育、ビジネスなど各種分野で、着実にアメリカと熊本の間に関係の見える友情の絆が育ちつつあるのを実感しているこの頃です。

古刹灌燭寺(カンチョクサ)の韓国最大の石仏(高さ18.2m)恩津弥勒仏(ウンジミルクブル)



県立美術館収蔵品から「曲馬」海老原喜之助作 1935年 油彩162.1×130.5cm



海老原喜之助は鹿児島出身だが、約十五年間、熊本で数々の代表作を発表する傍ら、多くの美術家を育成し地方文化振興に大きな足跡を残した。海老原は十九歳で渡仏。若くしてパリ画壇で注目されたが、これは帰国した翌年に発表し新風を巻き起こした傑作の一つである。

構図や簡潔な色使いは力動感に溢れ、細い手綱は、強い緊張感と深い空間を作り出している。手綱は切れていないが四本足に感じる。手は単純な円だが腕の奥ゆきを感じさせる。そういうトリックもあるために、抽象形態だが実在感を感じてしまう。また『海老原の青』と言われる青い空と白い雲が茶褐色の馬に映り静謐な詩情をたたえている。「昼、眼は外のものをみるが、夜になると眼は自分の内をみる」とつぶやいた彼。描写と表現の違いや独自の造型システム、イメージを追求した画家と言える。

(学芸課長 坂田 燦)